

令和6年11月27日
(2024年)

保護者のみなさま

吹田市立高野台小学校
校長 村上 弘明

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- *平均正答率は全国値を上回っている。
- *選択式の問題の正答率は全国値をやや上回っている。
- *短答式の問題の正答率は全国値を大きく上回っている。
- *記述式の問題の正答率は全国値を上回っている。
- *記述式の問題で無回答率が全国・大阪府に比べ少ない。
- *「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答は、全国値をやや下回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- *「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」は、全国値を大きく上回っている。
- *「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」は、全国値を大きく下回っている。会話の文章だけで、実物を示しながら話していることを想像していないと考えられる

書くこと

- *「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」は、全国値をやや上回っている。

読むこと

- *「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる」は、全国値を大きく上回っている。
- *「人物像を具体的に想像することができる」は、全国値をやや下回っている。

言語の特徴や使い方に関する事項

- *「話し言葉と書き言葉との違いに気付く」は、全国値をやや下回っている。

情報の扱い方に関する事項

- *「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」は、全国値をやや上回っている。

《国語科における成果や今後の改善点について》

- ◇コロナ禍の期間も含め、工夫してペア学習や小グループ学習を取り入れてきた。成果として、自分の考えを伝えようとする姿勢、態度が身につけてきている。
- 国語科に留まらず、情報を相手に分かりやすく伝えるために、図表やグラフを用いて効果的に書く機会を増やすことや、意図や目的に応じて適切な記述の仕方を考えることを習慣付けていく。
- 叙述をもとに、物語の様子や場面、行動や心情などに着目して読み進めることにより、物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりできるように読む学習を進める。
- 目的に応じて必要な事柄や情報を収集・選択するとともに、異なる点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら情報を整理することを意識付けていく。
- 話し合い活動において、話し手の意図を捉えたり、自分の意見と比較しながら聞く姿勢や自分の考えを整理して伝える力を育む。
- 漢字の意味や正しい使い方、敬語など語彙力を高める。

●算数《概要》

- *平均正答率は全国値を大きく上回っている。
- *選択式、短答式、記述式の問題とも、正答率は全国値を大きく上回っている。
- *すべての問題の正答率において、全国値を超えている。
- *「算数の勉強は好きですか」の肯定的回答は、全国値を大きく下回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

- *「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる」の正答率は全国値が低いにもかかわらず大きく上回っている。

図形

- *「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる」は、正答率が全国値を30%以上上回っている。

変化と関係

- *「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」の正答率は、全国値を20%以上上回っているが、すべての問題の中で最も正答率が低かった。

データの活用

- *「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる」の正答率は、全国値を20%以上上回っている。

《算数科における成果と今後の指導改善点》

- ◇問題解決型などの学習形態の工夫やこれまでの習熟度別学習により一定の成果が表れていると考えられる。特に、基礎的な計算については、放課後のはなまるタイムや「頭の体操」プリントなどの取り組みの積み上げの成果であると考えられる。
- 基礎基本の力の更なる定着を図りつつ、計算の習熟に力を入れるだけでなく、図や表、数式、言葉などの決められた条件を解釈し、求め方や理由を文に表す機会を増やす。
- 身近な生活に即した問題の提示や資料を活用し、興味・関心を引き出す授業づくりに取り組むとともに、学習したことを生活に結び付けて考えられる力を育てる。
- 具体物を操作する活動を取り入れることで、図形の性質や構成要素に着目し、図形についての見方や感覚を豊かにする。
- 日常の具体的な場面に対応させながら、変化の特徴を読み取り、図や式や言葉を用いて関係を表すことができるようにする。
- 問題解決型学習において、適切な数や式・言葉を用い、筋道を立て根拠を明らかにし、自分の考えを記述したり、説明したりする活動を増やしていく。

2 児童質問紙の結果《生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向》

〔自分自身のこと〕

- *「自分には、よいところがあると思う」（自己肯定感）について、肯定的な回答の割合は、90%を超え、全国値を上回っている。

- * 「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答の割合は90%を超え、全国値を大きく上回っている。
- * 「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、肯定的な回答が100%である。
- * 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」について、肯定的な回答が100%である。
- * 「学校に行くのは楽しいと思う」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について、どちらも肯定的な回答の割合は、全国値を上回っている。
- * 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について、肯定的な回答の割合は90%を超え、全国値を大きく上回っている。
- * 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」について、肯定的な回答の割合は70%にとどまり、全国値を下回っている。
- * 「友達関係に満足している」について、肯定的な回答の割合は、全国値を下回っている。

〔生活環境・学習環境〕

- * 「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的な回答の割合は95%を超え、全国値をやや上回っている。
- * 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」について、肯定的な回答の割合は全国値を上回っているが、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的な回答の割合は、全国値をやや下回っている。
- * 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」について、肯定的な回答の割合は90%以上で、全国値をやや上回っている。
- * 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」について、「1時間以上」との回答が約30%で、全国値を大きく上回っている。
- * 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」について、本校では「全くしない」の回答が最も多かった。全国では、「1時間以上2時間未満」の回答が最も多かった。
- * 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」について、回答は分散しており、最も多い回答が4つあり、うち1つは「4時間以上」との回答であった。
- * 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」について、肯定的な回答の割合は、全国値をやや上回っている。
- * 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、肯定的な回答の割合は、全国値を上回っている。
- * 「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強（学習塾などを含む）をしますか」について、月曜日から金曜日では「1時間以上」という回答が60%を超え、全国値を大きく上回っている。同様に、土曜日や日曜日など学校が休みの日では、「1時間以上」という回答は60%を超えており、こちらは全国値をさらに大きく上回っている。
- * 「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」について、本校では「家族と過ごしている」の回答が最も多かった。全国では、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている」の回答が最も多かった。
- * 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、肯定的な回答の割合は8割を超えるが、全国値をやや下回っている。

〔教科・学習について〕

- * 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問の中で、「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」について、肯定的回答が90%を超えて高かった。また、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」について、肯定的回答の割合は全国値を上回り、全国値との差も大きい。学習の中でICT機器の活用については、上記のような内容について特によさを感じていると言える。

- * 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」について、「発表していた」という回答は全国値を大きく上回っているが、肯定的回答全体としてみると、全国値を下回っている。
- * 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答の割合は95%を超えており、全国値を上回っている。
- * 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」について、肯定的な回答の割合は90%を超え、全国値を上回っている。
- * 「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」について、肯定的な回答の割合が全国値を下回っている。仮説から検証する理科学習のよさを感じられるよう授業づくりに生かしたい。
- * 国語・算数・理科・英語、それぞれについて、「勉強が好きだ」という肯定的回答の割合は、国語・算数・理科については全国値を下回っており、英語については全国値とほぼ同じであった。また、国語・算数・英語に関して、「授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、算数が95%を超え非常に高かった。一方、英語は80%を超えるが3教科の中では最も低かった。約2割が否定的な回答であることが気になるが、全国値でも同様の結果が出ている。

3 課題及び今後の取り組み

- ◇教科に関する結果を踏まえ、授業のねらいを明確にし、振り返りの時間を設けることや資料を活用した学習、自分の意見をまとめ表現するなど児童の体験的な活動を増やし、児童が見方・考え方を育み学習の主体となる授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めていきます。
- ◇これまで本校で取り組んできたはなまるタイム、頭の体操、読書タイムを継続するとともに、学習形態の工夫や、個に応じた指導の充実を図り、その効果を高め、基礎的な学力向上に努めていきます。
- ◇児童の「自尊感情」は、概ね高い傾向にあります。否定的な児童もいます。「自己肯定感（自尊感情）」は、何かをやるという意欲の源であり、まわりの人を受け入れて良好な人間関係を築くために必要なものです。今後も引き続き、子ども主体の学習、子ども主体の活動を仕組んでいく必要性を感じています。自分の力を信じて失敗を恐れずに取り組み、やり遂げることを通して自信をつけるという経験や、自分自身の価値を他人と比較するのではなく、自分自身を認め、まわりの人からも認められるという経験を、一人ひとりが持てるよう、成功体験や達成感を味わえるように、ご家庭と協力して取り組んでいきたいと考えます。
- ◇学級の友だちとの話し合い活動によって、自分の考えを深めたり広げたりすることができています。今後はさらに、自分とは異なる意見に対して考え議論する機会を積極的に設けることにより、ちがいを豊かさにする学校風土・学級風土づくりに取り組んでいきます。
- ◇本校を含め市内各校でもICT機器の積極的な利活用を進めています。児童が身につけるべき資質・能力を育むためのICT活用の在り方を考えながら、児童がICTのよさを生かして効果的に活用できる環境を整えるよう努めていきます。
- ◇規則正しい生活習慣、宿題、家庭での計画的な学習や読書習慣の定着など、児童の自立と幅広い学習の機会をつくる指導を進めるために、引き続き各家庭での働きかけやご協力をお願いいたします。
- ◇吹田市では、デジタル・シティズンシップ教育に取り組んでおり、児童が自分自身の生活を見つめ直し、インターネット、テレビ、ゲーム、本、新聞、雑誌などのメディアを自分にとってバランスよく利用することについて考える機会を設けています。家庭でも、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、話す機会を持ち、児童自身が主体的に考え、行動できるように、ご支援をお願いいたします。

今後とも、本校教育活動に対し、保護者のみなさまのご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。